

# 県政活動報告

発行者/皆川いわお  
〒400-0031 甲府市丸の内3-6-2  
TEL 055-222-5313  
FAX 055-233-3301  
E-mail: minagawa@nns.ne.jp  
<http://www.nns.ne.jp/pri/minagawa/>  
YAHOO JAPAN 検索「皆川いわお」

## 地方創生、県都・甲府の活性化 甲府城と「交流人口」の増加策

### 皆川いわお県議「大型観光バスの駐車場」整備を



#### 一貫した政策と政治姿勢 三つの課題克服に推進力

県議会において皆川いわお県議が提言し、取り組んできた課題は三つ。第一は県都・甲府の活性化を図るための「定住人口」の増加。優良企業の誘致とともに、企業の求める人材の育成が必要で「高等専専」が一枚もない本県は、それに代わる「技術者養成学校」の創設が必要だ。

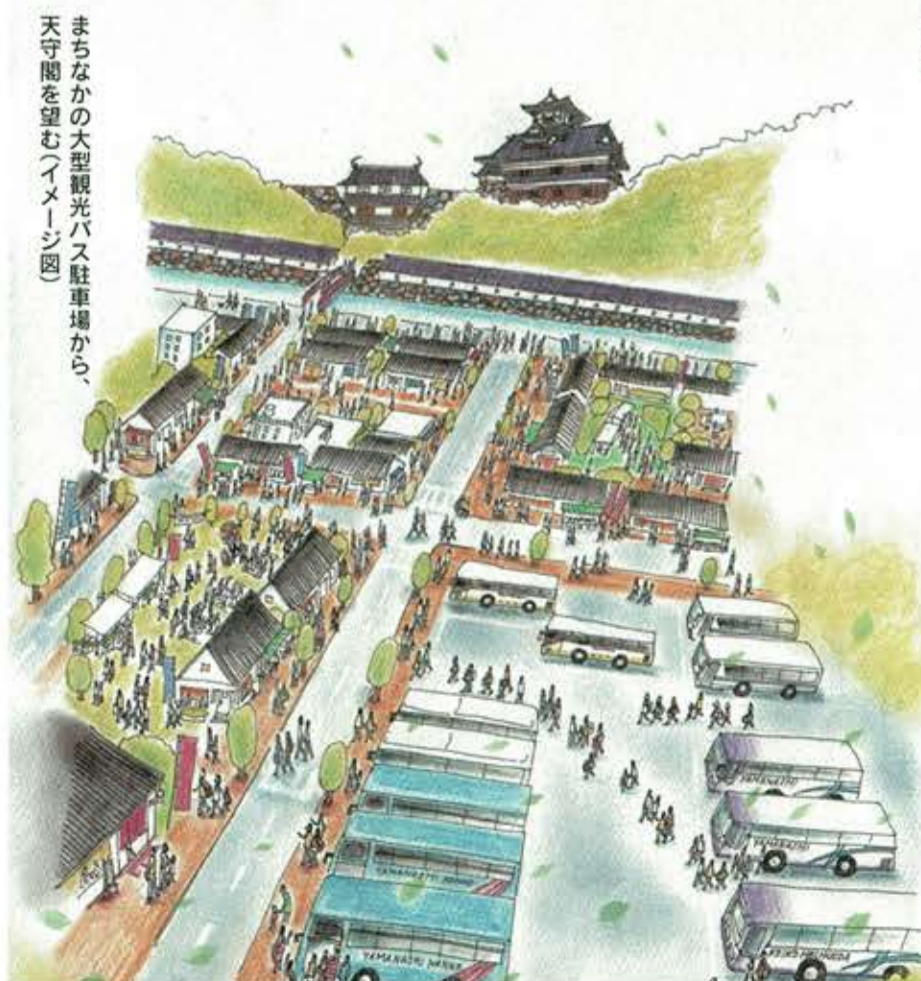
第二は「交流人口」の増加対策。このためには「大型観光バスの駐車スペースの確保」が急務。バスやマイカーの観光客の受け入れ態勢を整備すべきだ。

第三は「流出人口」を減らすための対策。「故郷の歴史教育、自然教育」を充実させ「いずれは山梨にUターンしたい」という心を育みたい。

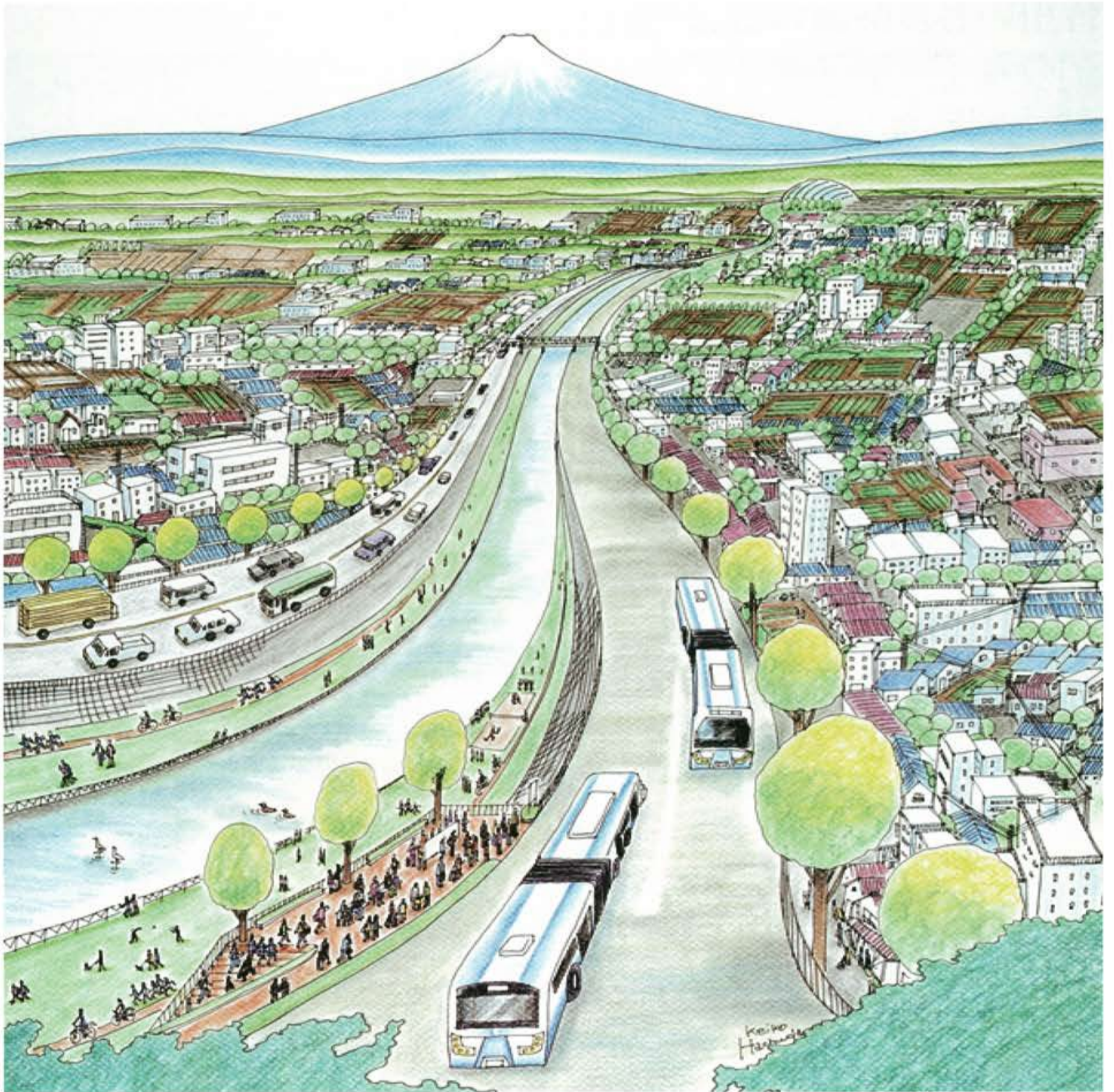
定例県議会で発言する皆川いわお県議「甲府城の文化的・歴史的遺産を活かし、観光誘致を図りたい。このために大型バスの駐車場を整備し、まちなかの経済効果を高めたい」

#### 歩いて楽しいまち 魅力ある観光拠点を

観光客は、大型観光バス駐車場からまちなかを歩き、買物や食事し「まち歩き」楽しみながら、甲府城を散策。観光客に親切で、甲府の魅力を紹介する案内板の整備も必要だ。甲府の歴史・文化遺産と結び、さまざまな散策ルートもプランしたい。皆川いわお県議の構想は、観光客が「時間を長く費やせる魅力ある観光拠点」づくり。交流人口の増加対策だ。



まちなかの大型観光バス駐車場から、天守閣を望む(イメージ図)



甲府駅とリニア新駅を結ぶアクセスのイメージ

**お城に温泉の遺構**  
「湯出ル」の裏づけ

**皆川いわお県議の質問**

議事堂東側の委員会棟改築工事において、敷石遺構が発見された。土壌から高濃度の硫黄が検出され、温泉の遺構だと思われる。江戸時代の絵図にも、同じ場所に「湯出ル」とある。お城のなかに温泉があったことを示す重要な遺構だが、どのように保存、管理をしているのか。

**学術文化財課長答弁**

ご指摘のとおり、土壌のX線分析をしたところ、周辺から高い濃度の硫黄の成分が確認されました。ここは江戸時代の絵図に「湯出ル」「水湯有」と表記されていて、近世城郭で温泉にかかわる遺構が発見されたのは、全国でも希有なことです。

いま、埋設保存がされ、委員会棟の建設工事が再開したところです。

**皆川いわお県議の質問**

埋設保存とは、埋めてしまうことだ。遺構の保存は、こうしたことでよいのか。

**学術文化財課長答弁**

埋設して保存するのがよいという判断であるため、措置をしたところです。

**皆川いわお県議の質問**

別のところへ移して再現できないのか。活用はできないのか。

**学術文化財課長答弁**

遺構を3Dデータで実測調査をしています。石垣展示室で、映像で紹介することを検討しています。

**リニアで山梨の可能性を開きたい**

**新たな交通システムの検討**

**甲府駅とリニア新駅  
新たな交通システムは**

**皆川いわお県議の質問**

甲府駅とリニア新駅を結ぶアクセスの強化が重要だ。新たな交通システムについて、どのように検討していくのか。運営面や採算面も重要だ。

**知事答弁**

利用者がリニアの時間短縮効果を最大限に享受できるように、定時性、迅速性を確保したい。こうした観点から、両駅間を結ぶ交通手段は、公共車両優先の信号システムを活用しての、バス交通が有力だ。荒川堤防のバス専用道とし

ての活用や、新たな交通システムの可能性についても検討していきたい。



皆川いわお県議は「アクセスの強化が重要だ」

観光拠点を整備し「観光立県」を確立したい

# 皆川いわお県議と天守閣復元構想

皆川いわお県議の議会・委員会発言より

## 天守閣など甲府城の復元整備

### 一〇万人の署名・要望書を提出

甲府城の天守閣整備を目指す「天守閣など甲府城復元・整備推進会議」の署名と要望書が一〇万人を超え、一〇月知事に提出された。甲府城の天守閣は四重五階建てで、天下分け目の関ヶ原以前、戦国の城郭としては「日本で六番目に大きな天守閣」だとされる。



甲府城天守閣復元完成予想図・北側より富士山を望む (新世紀甲府城下町研究会、提供)

世界の観光客を山梨に迎えたい  
オリンピックに向けてたまちづくり

### 誇りと賑わいを 甲府城周辺の再整備

#### 皆川いわお県議の質問

お堀の南は、水辺と小江戸文化の「お城フロント計画」を進めていくべきだ。誇りをもってまちを語れてこそ、賑わいのあるまちづくりや、自信をもって観光客を招き入れることができる。  
知事答弁

甲府城の整備については、来訪者の回遊性を高め、賑わいの創出につなげることが重要だ。税務署跡地などの未利用地の活用も視野に入れながら、回遊ルートが魅力あるものとなるよう検討する。

### 甲府城に天守閣 魅力ある観光都市に

#### 皆川いわお県議の質問

甲府城の整備が着々と進んでいるが、天守閣がなければ城下町に住む実感が薄い。観光客には天守閣があつての甲府城だ。具体的な天守閣の推定復元図も発表されている。

東京オリンピックには、世界各国からの観光客に、天守閣から

甲府盆地越しの富士山を見ていただきたい。天守閣建造についてどのように取り組んでいくのか。  
知事答弁

史実に基づいた復元整備を行なう段階には至っていない。引き続き、調査研究を進めていくとともに、県民の機運の盛り上げを踏まえながら、復元整備の可能性を探っていききたい。

### 観光バスの駐車場 経済効果を高めたい

#### 皆川いわお県議の質問

駐車場は、観光客がバスを降り、少し街を歩いて、お土産屋さんや食べ物屋さんを覗き、寄り道しながら甲府城へと散策できる場所になれば、経済効果が期待できない。県民会館や税務署跡地では、甲府城に近過ぎる。県民会館跡地については、むしろ、もともとあつた甲府城の内堀を復元整備すべきだ。

#### 観光部長答弁

甲府市が観光振興基本計画のなかで検討することになると思われるが、県としても委員のなかに入つて、さまざまな議論をして、できる支援を行なっていきたい。



「甲府駅南口は緑豊かで、開放的な空間に」と皆川いわお県議

# 皆川いわお県議の議会・委員会発言より

## 「福祉先進県」実現への取り組み「日本一高齢者にやさしい県」に



ドクターヘリとドクターカーの連携で、救命率を高めたい



### 少子化対策と、産後ケア拠点の開設

お母さんと赤ちゃん一緒に育児指導

#### 皆川いわお県議の質問

滞在型の「山梨県産後ケアセンター」が開設されるが、対象である産後間もない母親というのは、どのくらいの期間か。

#### 健康増進課長答弁

原則として、おおむね四カ月以内を考慮しています。

#### 皆川いわお県議の質問

出産後間もない母親が、不安を感じているのは事実だ。むしろ遅いくらいで、非常にいいことだ。運営は民営とのことだが、設立時に予算を出して、それ以降は民営ということか。

#### 健康増進課長答弁

運営費は支出しないけれども、利用料を県と市町村でそれぞれ半分ずつ負担して、利用者に対する補助という形で、公的にかかわり続ける予定です。

### ドクターヘリ導入と救命率の向上

ドクターヘリとの連携さらに体制強化を

#### 皆川いわお県議の質問

ドクターヘリが導入されてから救命率が向上している。普通の救急車とドクターカーを派遣するかの判断基準は何か。

#### 福祉保健部長答弁

第一報を受けたら、まず普通の救急車が駆けつけ、救急救命士が患者を診て、非常に重篤であり、一刻を争うという場合、県立中央病院の救命センターで定めた基準により、ドクターカーを呼ぶかの判断をします。

### 皆川いわお県議の質問

ドクターカーは山梨全体でどのくらいの台数があるのか。

#### 福祉保健部長答弁

ドクターカーは県立中央病院の二台のみです。救急車は現場でドクターカーの要請を行なった上で、ただ待っているのではなく中央病院に向かい、一方、中央病院から出動したドクターカーは県内に五〇箇所ほどあるランデブーポイントに向かい、救急車とのドッキングを行なっています。

#### 皆川いわお県議の質問

県立中央病院のドクターカー一台は年間で一日に二度近く出動していることになるが、今後、他の拠点病院においてドクターカーが必要かどうか。認識はあるか。

#### 福祉保健部長答弁

医師を確保することが難しく、今のところ救急救命センターが設置されている県立中央病院で対応していきます。

### 地域防災の強化、安心して暮らしたい

富士山の防災対策

避難対策の明確化を

#### 皆川いわお県議の質問

南海トラフ巨大地震への対策には、公的機関による救援活動とともに、市町村の自主防災組織や、ボランティア団体の取り組みが必要だ。液状化対策、富士山防災対策についてもいかがいたい。

#### 知事答弁

災害が起きたとき、自主防災組織等において、いつ、誰が、どのように避難や避難支援を行なえばよいか、明確になるよう、県の災害時避難対策指針の見直しを行なっていく。液状化危険マップを作成し、

県民に周知していく。富士山防災対策については、より実践的な火山防災アクションプランの策定をしたい。県域をこえた対策も進めたい。

### 「高等高専」設置で

人材育成

定住人口を増やしたい  
企業誘致と雇用の促進

#### 皆川いわお県議の質問

「高等高専」は国立ばかりでなく、全国には市立、府立の「高等高専」が四校ほどある。そう

したなかで、山梨こそ「高等高専」が必要だ。

なぜなら、山梨県の定住人口を増やすためには、企業誘致を図り、雇用の促進しなければならぬ。この実現には、企業の求めている人材、つまり、高等学校よりやや上の技術を持つ人材の育成だ。ぜひ「高等高専」を教育システムに組み込んでいただきたい。

#### 当局答弁

横の連携をとりながら、研究等は進めていきたい。



雪害対策会議での石破幹事長と皆川いわお県議  
自民党山梨県連の要請に対し石破幹事長は「政府と一体となって対応していきたい」と述べた



雪害対策に取り組み、被災現場を視察する皆川いわお県議  
甲府市山城地区・小曲のイチゴハウスで、被災農家から説明を受ける。ハウスの天井が雪の重さで崩落している